

## 小牧市への要望に対する回答書が提示されました

昨年10月25日に、当所より山下市長と伊藤市議会議長へ提出した要望書に対する回答書が、4月17日に小牧市より提示されました。回答書の概要は以下の通りです。(要望内容の詳細は所報昨年11月号に掲載しておりますのでご参照下さい。)



▲山下市長より回答を受け取る成瀬会頭(右)

なお、今後、関係委員会や関係部会にて回答内容を吟味し、必要に応じて小牧市関係部局と協議の場を設けるなど、フォローして参ります。

### 1.企業支援

#### (1) 商工業発展のための条例の制定

小牧の産業を支えている中小企業の振興につきましては、非常に重要な課題であると認識しております。小牧市では、現在、「小牧市企業新展開支援プログラム」を本年6月の策定に向けパブリックコメントの手続きを進めております。この計画では、産業振興の基本理念等を定めるとともに、具体的な取り組みとして、中小企業に対する新たな支援策の導入や既存の支援策の充実等について検討しております。

中小企業振興基本条例についても別途、貴所や市内の事業者の方々と意見交換を行いながら、制定に向けての調査や研究を今後、進めて行きたいと考えております。

#### (2) 企業の事務軽減支援

現在、法務局で行っている登記事項証明書等の発行業務については、市が委託を受けるといった制度はありませんが、瀬戸市においては、名古屋法務局瀬戸出張所の廃止に伴い、平成22年に市役所内に「名古屋法務局瀬戸証明サービスセンター」が設置され、登記事項証明書や会社・法人の印鑑証明書の発行が行われています。このため、本市におきましても、市役所への証明書発行請求機の設置について、平成25年12月に、

名古屋法務局へ要望書を提出させていただきました。しかしながら、平成26年1月に、名古屋法務局より、「隣接登記所(名古屋法務局春日井支局)までの公共交通機関及び自家用自動車による通常の片道所要時間がいずれも30分以上であること」との基準を満たさないことから、設置の対象とすることは困難であるとの回答がありましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

#### (3) 人材育成に対する助成金の創設

市内の既存事業所の操業継続にあたり、人材の確保・人材育成の支援は重要な課題の一つであると考えております。小牧市では「小牧市企業新展開支援プログラム」を本年6月に策定する中で、上記公的団体が開催する研修の受講料に対する助成について、制度化を図る計画としております。

#### (4) 地元企業への育成支援について

入札に際しては、公平性、透明性、競争性が確保できることを前提としつつ、出来る限り地元企業の入札参加の機会を確保するよう努めているところであり、その取組みの一つとして、土木工事における市内本店企業への発注を増やすため、入札参加基準を緩和いたしました。

また、建設工事の総合評価落札方式の入札公告において、下請企業の選定ならびに建設資材等を購入する場合には、できる限り市内企業を活用することをお願いしているところです。

平成25年3月には、「入札制度改革基本方針」を策定し、その方針に沿い、企業の経営環境の改善のため中間前金払制度を導入したり、建設工事における一般競争入札の対象案件を拡大し、市内本店企業がより多くの入札に参加できるようにするなど改正いたしました。市としても入札において、地元企業に積極的に参加いただきたいと考えており、入札参加資格審査については、現在、平成26・27年度分の随時受付を行っているところでありますが、新たに入札に参加を希望される事業者の方々より、入札参加登録申請の登録説明会の開催などの要望がありましたら対応いたしたいと考えております。入札結果に関する開示につきましては、契約検査課窓口で公表しておりますが、各担当課において発注している案件もあり、そうした案件はそれぞれの課にお尋ねいただきたいと存じます。

#### お詫びと訂正

4月号3ページに以下の誤記があり、深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。  
平成26年度予算総括表地域限定商品券発行推進事業特別会計の期中実収入予算  
平成25年度1,156,291千円に対し、平成26年度1,146,230千円の増減額▲10,061千円(対25年度比99.1%)  
訂正箇所 対25年度比 誤 100.5% → 正 99.1%

## 2. 中心市街地の街づくり

### (1) 中心市街地の将来像を策定するための協議会の設置

中心市街地活性化のあるべき姿につきましては、平成12年3月に策定された「小牧市中心市街地活性化基本計画」の中において検討・協議されましたが、その後14年が経過し、中心市街地を取り巻く状況についても変化していることから、将来像について協議ができるような場を検討していきたいと考えております。

### (2) 中心市街地活性化基本計画における事業の見直し

上記でお答えしましたように、平成12年3月に策定された「小牧市中心市街地活性化基本計画」につきましては、策定後14年が経過していることから、基本計画やこれまでの活性化への取組みに対する検証・評価や、中心市街地の現状や国、県の動向、先進地の事例等も踏まえながら、新たな計画策定の必要性についても検討していきたいと考えております。

### (3) 中心市街地への誘導に関する取り組み

都市計画道路名古屋犬山線の供用開始に伴い通過交通が移行し、中心市街地における交通渋滞緩和や環境面において効果があったと考えております。ご指摘のありました中心市街地へのアクセスの確保については、地元区などからの要望を踏まえて、計画変更を行い旧名古屋犬山線と国道155号との新町三丁目東交差点の信号機を存続して、平成25年1月15日に供用開始を行いました。その後、地元関係者等と再協議をさせていただき、中心市街地への誘導を目的として、県道名古屋犬山線と国道155号及び市道小牧駅北線において、既存の案内標識の盤面取替と補助看板を設置しました。

## 3. こまきプレミアム商品券発行事業に対する補助金制度の継続

小牧市といたしましても「こまきプレミアム商品券発行助成事業」については、重要な施策と考えております。平成26年度につきましても予算措置がされましたので継続をさせていただきます。

## 4. 観光による街づくり

### (1) 全体構想や関係団体の役割等を定める観光推進基本計画の策定

観光事業は、行政だけで進められるものでは

なく、多くの事業者、市民の方々と協力して進めていく必要があることから、小牧市の目指す観光の目標、役割等を共通理解するためにも、観光基本計画を策定していきたいと考えております。つきましては、平成26・27年度の2ヵ年において観光基本計画を策定するため新年度予算を計上したところであります。

### (2) 観光資源としての小牧山の活用策

小牧山は、「天正小牧・長久手の戦い」に関係する山として有名でしたが、近年の調査で、織田信長が小牧山南麓に城下町を築いたことが分かり、さらに山頂の主郭地区調査では、信長が築いたと思われる本格的な石垣が残っていたことから、全国にも紹介され注目を浴びてきております。従来、小牧市にはこれといった観光資源もなかったことから、観光に対する意識も低かったと思いますが、これを機にすぐに観光にむすびつくかという、まだまだ時間がかかると思われます。山頂の主郭地区については、平成25年度までの調査をもとに、整備計画の見直しを行い、順次整備をしていく予定としておりますが、全体の見せ方としてどうあるべきか、どの程度まで石垣を組んでも問題がないのかなど、専門家の意見や文化庁の指導を仰がなければなりません。特に石垣については、信長が築いた近世城郭の原型として、全国に誇れる価値あるものであることから、後世の評価にも耐える整備をする必要があります。現在の技術では解明できないが将来の技術進歩で新たな発見につながる可能性があれば、部分的に現状のまま残すということも、ひとつの方法だと思います。ただ、せっかく小牧山を訪れ、発掘当時の状況や小牧山の変遷が何も分からないままでは魅力がないため、実物を見せても問題がない部分については見せる工夫を、当面見せることが難しい、特に信長の時代から家康の時代へと、どういった改変が加えられているのかという点については、映像などの新しい技術を使って解説するなどの魅力を持たせなければならないと考えております。そうした点から、平成26年度は（仮称）史跡センター整備基本構想を策定し、史跡センターをなるべく早く整備していきたいとの考えであります。また、旧本庁舎跡地については小牧山城のメインルートである大手道を含む地点であり、小牧山城の顔となる部分であることから、新たな小牧山の魅力に繋がるよう、平成28年度末の整備完了に向けて、平成26年度には旧本庁舎建物の解体と、跡地整備を進めていきます。

**(3) 小牧市のシンボルである「小牧山城」や「織田信長公」をテーマとし、本年実施した楽市楽座の考え方を継続する観光イベントとして「こまき信長まつり」の継続実施。併せて、年間に実施される小牧市民対象の各種イベントの整理統合を行い、市内外からの来訪者も増加させることのできる魅力と集客力のあるイベントの開催**

平成25年の織田信長公小牧山城築城450年記念事業を実施するにあたり、夢・チャレンジをキーワードとして、魅力を体感できる環境づくりや情報発信に取組んだほか、市民、事業者との協働により事業を進めてまいりました。その精神を受け継ぎながら、引き続き貴所をはじめとする関係団体にご協力いただきながら、継続できるものは実施していきたいと考えております。また、現在開催しております各種イベントにつきましては、市外からの誘客という目的をもたせられるものについては、その視点からの検討を進めたいと考えております。

**(4) NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団やACミランサッカースクール愛知など小牧市独自の文化・スポーツによる地域資源を活用した観光振興**

小牧市には歴史的な資源のみならず、さまざまな地域資源があると承知しております。観光基本計画を策定する中で協議していく必要があると考えております。また、それぞれの地域資源を観光振興に結びつけていくには、そういった事業の主体者との連携や、それらの情報を集めて発信するといったコーディネート機能が必要になると考えられることから、その役割をどこがどのように担っていくのか、仕組みづくりも含めて、計画策定の中で協議していきたいと考えております。

### 5.地域ブランドの創出

**(1) 名古屋コーチンの啓蒙普及  
①学校給食への名古屋コーチン使用**

学校給食では、学校給食週間など様々な機会をとらえ、愛知県産の食材や地元の食材を使った献立により地産地消の推進に努めています。地域ブランドである名古屋コーチンについては、これまで味噌煮込みうどんやコマチン丼（親子丼）コロケなどの献立の食材として利用しており、給食時には名古屋コーチンの話を伝えるなど興味を持ってもらえるようにしています。

学校給食の献立に使用する食材は、保護者に

負担していただく給食費で賄われており、給食費は小学校で235円、中学校では270円となっております。このような限られた予算の中ではありますが、今度とも機会をとらえて献立にとり入れていきたいと考えております。

**②名古屋コーチン普及啓蒙活動事業費補助金制度の見直し**

名古屋コーチンにつきましては、貴所内におかれまして、平成23年度より名古屋コーチンプロジェクト事業推進委員会を設置され、名古屋コーチンの普及啓蒙活動をはじめ、商品開発・販路拡大等事業に積極的に取り組んでこられたことにつきまして、感謝を申し上げる次第です。

地域ブランド創出に向けての商品開発につきましては、平成25年の小牧山城築城450年記念事業の一環として、小牧市観光特産品開発チャレンジ事業費補助制度を創設したところであり、本年度も一部改正し続けていくこととしております。なお、名古屋コーチンの商品開発につきましても、各事業者の方にこの制度の活用をしていただけるものと考えております。

**(2) 観光特産品開発チャレンジ事業費補助金制度の継続と見直し**

平成24年に制度創設した小牧市観光特産品開発チャレンジ事業費補助金につきましては、上記で回答させていただきましたように、本年度も一部改正をして継続をしてまいります。その中で補助対象事業の完了は、申請年度の年度末を条件として、同一商品につき3回を限度として、開発、改良、販路拡大に取り組んでいただけるように改正しましたので、貴所会員の皆様にも活用いただきますようご周知願います。

## 6.環 境

**(1) スマートシティ情報統合管理基盤の構築**

スマートシティについては、エネルギーと社会システムを統合的に管理する多様な分野・領域に係わる壮大な計画であることから、環境モデル都市等（県内では豊田市）で実証実験が行われているところでありますので、その進捗状況を注視していきたいと考えております。

**(2) 「地域ESCO事業」**

すでに市有施設の中で事業効果の見込める施設（温水プール、市民会館・公民館）を選定し、単独でESCO事業を実施しております。一方、複数の施設を組み合わせる事業については、

効果保証の補填を求められるESCO事業者にとってリスク分散が図れる点で手を挙げやすくなる可能性はありますが、施設ごとに見合った改修、管理が必要であるため、組み合わせ対象に確実に収益を見込める施設が無い状況ですと、事業を担うESCO事業者の参加も望みにくいことから、地域ESCOの導入は難しいと考えております。

### (3) 地産エネルギー導入促進事業

小牧市の地理的状況から、現状は太陽光・太陽熱がもっとも有力な再生可能エネルギーと認識しておりますので、家庭向け太陽光発電システム及び太陽熱利用システム設置補助を行い、再生可能エネルギー（地産エネルギー）の導入促進を図っています。なお、事業所等については、固定価格買取制度を活用すれば経済的なメリットが十分あると考えておりますので、補助制度を設けることは考えておりません。

### (4) 低炭素モビリティ事業

小牧市では、移動における低炭素の第一義的な取り組みを「公共交通の利用促進」と考え、こまき巡回バスの運行やデマンド交通実証実験運行などにより公共交通の利便性向上に取り組んでおります。なお、EVなど低炭素車両の普及及び充電設備等のインフラ整備については、次世代自動車の主流が見通せない状況にありますので、国・県をはじめとした市場の動向を注視していきたいと考えております。

以上のことから、各種取り組みを協議する協議体の設置については、現在のところ考えておりませんが、今後も国・県等の動向及び社会情勢の盛り上がり等を鑑みながら必要に応じて適宜検討してまいりたいと考えております。

## 7.市内幹線道路等の更なる環境整備

### (1) 交通危険個所の整備

#### ①三ッ淵南交差点の停止線の位置変更

小牧警察署に確認しましたところ、道路幅員が狭いため、現地において北進する大型車両が交差点を安全に左折（西側へ曲がる）しようとするためには、現在の交差点の停止線から1m～2mの移動では足りず、7mは後方（西側）に下がる必要があるとのことでした。したがって、交差点から離れた場所への停止線の位置変更は困難でありますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

### ②小牧市役所南側道路の電柱の移設

この電柱は、当路線に埋設されている地下ケーブルの立ち上がりの役割があり、移設には、時間と多額な費用が必要でありますので、当路線で計画されております電線共同溝事業（無電柱化）に併せて移設を行う予定であります。現在は、車線誘導標を設置して安全対策を行っております。

### ③県道197号線の米野小学校南交差点以東の道路の歩道整備

県道小牧春日井線は小牧市の中心市街地を東西に貫流して、沿道には市役所、市民病院などの公共施設や大型商業施設などが多く集積している幹線道路であります。米野小学校南交差点以東については、歩道未整備であり、危険な状況であることは認識しております。道路管理者である愛知県への要望活動を継続しており、昨年も、7月29日に山下市長が直接愛知県へ要望書を提出しており、事業化へ向け引き続き要望活動を強化してまいります。

### ④米野小学校南交差点から南方向1個目の押しボタン式歩行者信号の改善

信号機の設置につきましては愛知県公安委員会の判断によるものであります。ご要望いただきました押しボタン式歩行者信号から全方位対象の交差点信号へ改良する件について、昨年10月小牧警察署にお伝えし、現在、検討いただいているところであります。

### (2) 渋滞緩和の推進

#### ①国道155号線小牧警察署前交差点の南北道路の渋滞解消

国道155号と市道間々池3号線が交差する小牧警察署前交差点は、右折車線設置に向け既に事業化をしております。この交差点改良事業には、小牧警察署、大型店舗等の移転が必要であり、現在は、土地所有者及び関係者等との協議をしている状況であります。

#### ②年間における道路等の整備工事計画の分散化

道路工事の平準化のため早期発注に努めておりますが、地権者や他機関との調整、渇水期施工等の理由により、年度後半に発注が多くなっております。今後も関連部署と調整を密にして、工事の分散化・平準化を図るよう努めてまいります。